

ほうなん

令和7年度 5月号

杉並区立方南小学校

児童の自己肯定感を高めるための大人の役割

副校長 清原 正之

新年度がスタートして1か月が経ちました。1つ上の学年になり、クラスの構成メンバーが変わりました。（一部の子を除き）担任も変わりました。教室の窓から見える景色も変わりました。身の回りにたくさんの変化が起こる4月。変わっていないはずの通学路の景色も、子どもたちからすると3月に比べて少し違うものに見えたかもしれません。まだ新しい環境に慣れていない子にとっても、すっかり新しい環境に慣れて力を発揮している子にとっても、頑張っただけの1か月間だったに違いありません。

間もなくやってくる大型連休後半。その連休が明けると、一般的に「学校に行くのが辛い」「気分が乗らない」という子が増える傾向にあります。私たち教職員は、連休明けも、楽しい充実した学校生活を送ってほしいと願っています。そのための手立ての一つに、私は、「子どもたちの自己肯定感を高めること」があると考えます。各種調査において、自己肯定感が高い子は、あらゆる場面で主体的に行動できる、前向きな気持ちで生活できる、という結果が出ています。

では、子どもたちの自己肯定感を高めるために、私たち大人にできることは何でしょうか。また、子どもたち同士で自己肯定感を高め合うことはできるのでしょうか。この4月に私が出あった3つの場面を通して考えてみます。

1つめは、6年生が1年生のお世話を頑張っている時のこと。今年度も、6年生は始業前に1年生の教室に行き、朝の支度の手伝いをしています。見ていると、大人が褒めたくなる6年生の行為がたくさんあります。そんな6年生に対して、例えば、「しゃがんで1年生の目の高さで会話をしている立派！」という誉め言葉だけでなく、「きっと1年生も話しやすかったと思うよ。」と行為の価値を伝えることで、自分がどのように役に立ったのかが明確になります。

2つめは、ある朝、登校する子どもたちを玄関で出迎えていた時のこと。ある子が悲しそうな表情を浮かべて話しかけてきました。「新しい学年になって、漢字が急に難しくなってきたし、やらなければならないことも増えたし、なんだか嫌だな。」この時、私は咄嗟に適切な言葉を返すことができませんでした。「頑張れ」や「ここまでよく頑張ってきたね」という言葉かけは、この場面では違う気がする……でも、この子の気持ちをしっかりと受け止めなければと思い、笑顔でうなずきながら話を聞きました。一通り自分の気持ちを表出したこの子は、ほんの少しだけすっきりとした様子で教室に向かっていきました。この子の思いを傾聴したことは間違いではなかったと思いますが、よりよい言葉かけがあったのではないかと今も考え続けています。

ここまでの2つの場面は、私と子どもとの関わりの場面でしたが、3つめは、子ども同士が関わり合った場面です。あるクラスの子どもたちが、上の階での学習を終えて下の階へ向かっている時のこと。ある子が、周囲の友達に、「私、高いところが怖い。ゆっくり下りるから、みんなは先に行って。」と話していました。この話を聞いたほとんどの子は、先に階段を下りていきましたが、友達の中の一人が、怖がっている子のそばにつき、「待っているから。大丈夫。」と励ましていました。怖がっていた子は、友達の励ましを受けて、ゆっくりと少し嬉しそうに階段を下りていきました。その様子を見た友達も、嬉しそうな表情でした。励まされた側は「自分は大切にされている」という思い、励ました側は「自分は役に立っている」という思いをもったことでしょう。

「褒めて価値付ける」「傾聴する」「励ます」以外にも、自己肯定感を高める方法はたくさんあります。これらの方法を、まずは教職員が率先して実践することで、それが児童にとってのモデルになると考えます。そして、いずれは児童同士がすすんでお互いを認め合えるようになっていこうと考えます。自分のことも相手のことも大切にできる、温かい雰囲気のある学校を、みんなで作っていききたいものです。私も副校長として、全校朝会やこの学校だよりの巻頭言（隔月担当）を通して、子どもたちの頑張りを発信し、価値付けていきます。

よろしくお願いします！ (転入の先生)

森野 萌 先生

今年度より6年生の英語科を担当することになりました。講師の森野です。私が英語に興味を持ち始めたのは、「I'm proud of myself.」という言葉を知ってからです。日本語では「自分を誇りに思う」ですが、日本ではなかなか言いません。今年度、英語を通して、子ども達にI'm proud of myself!と思ってもらえるよう、楽しく一緒に学んでいきたいと思っています。

大淵 史 先生

久しく教育現場を離れていましたが、今年度方南小学校で1、2年生の図工を担当させていただくことになりました。

子どもたちが、「図工って楽しいな」と思えるような授業をしていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

矢野 和子 先生

美しいむさし野の森のある方南小学校に久しぶりに戻ってきました。早速、きらきらと咲き乱れる菜の花や日向ぼっこをするシマヘビ、たくさんのオタマジャクシが出迎えてくれて嬉しくなりました。今年度は学習支援教員としてスタディールームで算数を担当させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

永富 玲子 先生

今年度より第一学年のエデュケーションアシスタントとして採用されました。この仕事は初めてで少し緊張していますが、元気に頑張る子供たちから私も頑張る力をもらっています。これから子供たちが気持ち良く学校生活を送れるようにお手伝いをさせていただきます。一年間よろしくお願いいたします。

八耳 恵子 先生

昨年度までは、ほうなん教室やスタディールームで方南小学校のお子さんたちと一緒に過ごしてきました。今年度は1年生の音楽を担当させていただきます。「聴く・歌う・演奏する・音に合わせて動く・音で呼びかけあう」などの音楽の学習活動を楽しんで進めていきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

古谷 美佐子 先生

今年度から方南小学校に採用となりました。先生と呼ばれる事に戸惑いながらも子供達の笑顔に癒されています。学校生活がより良くなります様に試行錯誤しながら頑張っていきたいと思っています。

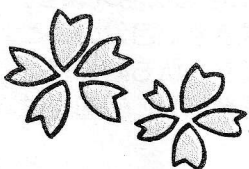
どうぞよろしくお願いいたします。

池田 美佑奈 先生

新しく支援員になりました。火曜日と木曜日はたけの子クラブでボランティアをしています。みなさんと一緒に成長できるよう頑張ります。

よろしくお願いいたします。

※学校だより4月号で紹介できなかった先生方の紹介です。



お世話になりました！ ありがとうございました

藤井 隆一 先生

元気で素直な子どもたち、温かく頼れる地域の方々、広くて明るい校舎、このような恵まれた環境の方南小学校で仕事をさせていただいたことをとても幸せに思っています。

たくさん子どもたちと出会えたことや、授業や行事で楽しく音楽ができたことをいつまでも忘れません。

方南小学校や方南町の地域の益々の発展を願っています。4年間本当にありがとうございました。

森 栄子 先生

保護者の皆様、学校支援本部の皆様、地域の皆様、可愛い子供たちの幸せのために、ご尽力いただきましてありがとうございます。大変お世話になりました。けがをして右手が動かなくなり医師から「あきらめて」と言われましたが、リハビリを続け学校に戻ることができました。あきらめずに努力を続けることの大切さを学びました。方南小の皆さん、もうダメだと思うようなことがあってもあきらめず努力をし続けてください。ファイト！

山本 美都理 先生

3年間お世話になりました。元気いっぱいの方南小の子どもたちと、いつもあたたかい言葉をかけてくださる保護者の方々と関わったこと、とても嬉しかったです。地域、学校支援本部の皆様にも様々な場面でたくさんお力添えをいただきありがとうございました。

方南小のみなさんのことをいつまでも応援しています。

青木 一真 先生

今まで大変お世話になりました。方南小での6年間はとても充実した日々でした。毎日がとても楽しく、初任校が方南小学校だったことを心から幸せに感じています。至らない点もあったと思いますが、子どもたち、保護者の皆様、地域の方々に支えていただいたおかげで教育活動を行うことができました。方南小での経験を生かし、今後も精進して参ります。皆様の健康と更なるご活躍をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

木本 敬吾 先生

6年前に2年間、そして2年前の途中から昨年度の1年間、担任としてお世話になりました。子どもたちとともに学び、成長できたことは、私にとってかけがえのない経験です。保護者の皆様、地域の方々、そして温かく支えてくださった先生方や職員の皆様に、心から感謝申し上げます。ここでの学びを糧に、新たな場所でも精一杯努めてまいります。本当にありがとうございました。

林 怜実 先生

短い間でしたが、子供たちや保護者の方々、地域の皆様に支えられ、大変充実した一年間でした。方南小の子どもたちはとても人懐っこく、ふらっと保健室に顔を出し、色々な話をしてくれることもありました。素直でかわいい子供たちに癒され、私の方が元気をもらっていたなど、この一年を振り返ると強く感じます。これからも子供たちの健康を応援しています。ありがとうございました。

